



SIRA外国籍市民支援事業 仙台市災害時言語ボランティア育成



災害時に外国籍市民を支援するサポーターを育成

語学力を活かして災害時のチカラに

災害時には、被災状況や支援の受け方などの情報について、正しく最新のものを得る事が大切。しかし日本語が不自由な外国籍の人たちにとって、それは簡単なことではありません。災害時言語ボランティア(以下ボランティア)は、地震や水害、台風などの大規模災害が起こった時に、外国籍の人たちを「言語」の面でサポートする市民ボランティア。災害時には、仙台市の要請を受けて活動します。SIRAは、仙台市からの指定管理により、このボランティア制度の管理運営を行っています。

ボランティア登録者は、2010年3月現在で約50名。外国語が堪能な日本人だけでなく、仙台に在住し日本語が堪能な外国籍市民も多く登録しています。大規模災害の発生時には、仙台市やSIRAと協力し、避難所を巡回して被災した外国人を支援したり、災害情報・支援情報の翻訳などを実施。また平時には、仙台市の防災訓練やSIRAで開催する研修会に参加し、大規模災害に備えます。

外国籍市民の防災訓練参加をサポート

ボランティアの出番は、災害時だけではありません。市内で行われる防災訓練や関連イベントに参加する外国籍市民を言語面でサポートするのも活動のひとつ。

11/1 に行われた青葉区三条町の防災訓練には、英語・中国語・モンゴル語などの担当ボランティア 7 名が参加。様々な訓練や専門用語は、日本語が堪能な人でも難しいもの。地震のない国から来た外国籍市民にとってはなおさらです。

ボランティアは、火事の煙の怖さを体験する「濃煙体験」(写真右上)や、災害時のNTTの伝言サービス「171」の使い方など、特殊な訓練の説明を通訳して、外国籍の参加者をサポートしていました。

研修会で専門知識を蓄える

SIRAでは、ボランティアのためのガイドンスや研修会も年に数回開催しています。2/27 に開催した公開研修会には、ボランティア 10 名を含む 40 名が参加。京都市国際交流協会から高野花子氏を講師に招き、外国籍市民対象の避難所訓練について先進事例を学びました。研修会には市内の防災関係者も多く参加し、情報交換もさかんに行われました。

SIRAではボランティアを常時募集中です。詳しくは仙台国際交流協会(下記連絡先)までお問い合わせください。



11/1 三条町防災訓練の様子
青いジャンパーのボランティアが外国籍市民をサポート



2/27 公開研修会の様子
仙台の外国人支援体制について関係者と意見交換

【平成 21 年度仙台市災害時言語ボランティア育成事業の概要】

- (1)登録状況(平成 21 年 3 月 31 日現在)
登録者数: 49 名
対応言語: 13 言語
(英、中、韓、スペイン、ポルトガル、フランス、ドイツ、ロシア、アラビア、モンゴル、内モンゴル、インドネシア、トルクメニ)
- (2)活動実績: 延べ活動者数 49 名
- ①5/20 第 1 回ガイダンス(仙台国際センター)
内容: 活動内容の確認、情報・意見交換等
活動者数: 4 名
 - ②6/12 市総合防災訓練(七北田公園 市名坂小学校)
内容: 災害多言語支援センター設置、避難所巡回等の訓練への参加
活動者数: 7 名
 - ③9/12 せんだい地球フェスタ 2010(仙台国際センター)
内容: フェスタ内防災コーナーの運営
活動者数: 3 名
 - ④10/11 東北福祉大学 減災運動会(東北福祉大学)
内容: 減災イベントへの参加を通しての研修
外国籍市民参加者への言語面でのサポート
活動者数: 2 名
 - ⑤11/1 三条町防災訓練(三条中学校)
内容: 外国籍市民参加者への言語面でのサポート
活動者数: 7 名
 - ⑥11/26 第 2 回ガイダンス(仙台国際センター)
内容: 活動内容の確認、情報・意見交換等
活動者数: 11 名
 - ⑦2/27 災害時言語ボランティア公開研修会(仙台国際センター)
内容: 他県の災害時外国人支援の事例学習や関係者との意見交換等
活動者数: 10 名
 - ⑧多言語防災情報番組「グローバルトーク」への出演
内容: Date FM の防災情報番組「Sunday Morning Wave」内の 1 コーナー「Global Talk」に出演し、自身の地震体験を話すとともに、母国語による防災アドバイスも紹介。
活動者数: 5 名